

**医療データ人材育成拠点形成事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	1
代表校名 (連携校名)	東京大学 (筑波大学、富山大学、自治医科大学)		
事業名	医療リアルワールドデータ活用人材育成事業		
事業責任者	大学院医学系研究科長・医学部長 齋藤 延人		
事業の概要			
<p>電子カルテシステムの普及やデータ収集基盤の社会的整備が進み、大規模な医療データの創出が進んでいるが、この大規模データから知見を得て、国民の健康課題の解決に資することが必須である。しかし、医療現場から創出される大規模医療リアルワールドデータ（RWD）を適切に解析するためには高い専門性を持って意味あるデータを抽出、形成し、課題にマッチしたデータ分析を行える総合力と実践力を有する人材の育成が喫緊の課題である。そこで本事業では、大規模医療 RWD について 1) データ特性・意義やバイアスを理解し、2) データ標準化と変換及びクレンジングにより解析可能な形式のデータベースに構築し、3) 具体的な医療課題解決と知見創成に必要なデータ処理技術を習得し、4) それを自ら実践でき指導者層にもなりうる人材を、種々の医療生データを素材として実践的技術と知識を修得できる教育コースを設置し、高度な医療人材の育成を推進する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○履修科目や教育内容が実践点的で本格的なものとなっており、評価できる。</p> <p>○匿名加工医療情報公正利用促進機構と連携し、次世代医療基盤法に沿った匿名加工医療情報を扱う点が評価できる。</p> <p>○各大学の特徴をプログラムに反映する等連携体制が緻密であり、事業の継続が確保されている点が評価できる。</p> <p>○インテンシブコースでは、一般履修コースと同じ科目構成から選択した短期集中型になっており、能率的な実効性が期待できる。</p> <p>●事業継続に係るバーチャルな修士課程の開講やオンライン教材の知財化による対価収入についての具体的な計画が示されていない。</p> <p>●対象者の受講環境等への配慮が期待される。</p>			